

21C・九州創造のための交流会の設置

地域づくりには知恵が何よりの栄養です。知恵と知恵の掛け算は、さらなる飛躍の源泉となります。

「道の駅」の制度は、中国地方で始まった「地域づくり交流会」の「道の部会」で、一人の主婦が、渋滞したら困るんよね。道にも駅があつたらいいのに...という発言があり、それを、産学官野の交流会ですから、建設省の役人さんも、建設コンサルタントの技術者も、町の写真家も町長さんも聞いていて、「それは面白い、実験してみよう」ということから、雪時のチェーン着脱場を活用して「社会実験」をはじめたのがきっかけでした。

九州は、大陸を身近にした地域で、その開発に協力する立場としての学園、宿泊地の整備。自然と都会が身近にあって都市・農村の交流・共生の可能性を高める地域。一方、災害に強い地域づくりなどが求められています。

このような理念をこまめに実現するには、知的交流会が不可欠です。それも、真っ昼間の硬い時間帯ではなく、夕方から一杯くらいは胃袋に入れて、興味のあるテーマごとに集うのです。各地からは、地元名物を持ち寄り、自慢しながら肴を楽しみ、続いて、わいわいがやがや夜なべ談義をやるうちに、びっくりするようなアイデアが飛び出すことを期待します。

夢・アイデア募集の集団が集まって交流会を開催し、時には研究会をもって意識を深めること、それ自体有益な活動となります。最高の資源は、人材育成です。

進め方の一般的な手順は、次のとおりです。

呼びかけ人（発起人）の募集

今回応募されたテーマ等から関心あるものの議論をはじめます。

公表するなど世論形成を図ります。

実現への運動を開始します。

